

糖尿病の薬物治療

～その目的と内服薬の種類について～

社会福祉法人 大阪暁明館病院

薬剤科 伊原千絵

薬物治療の目的

薬物治療の目的は、血糖値を良好に保つことで、**合併症の進展を防止**し、健康な人と変わらない日常生活の質を維持することです。

糖尿病治療の基本は、**食事療法**と**運動療法**です。この食事療法と運動療法のみで十分な血糖コントロールを得られることもあります。不十分な場合には薬物治療を行います。

経口薬による治療が必要な時とは・・・？

食事療法や運動療法の効果が不十分なとき

- ①糖尿病と診断されて食事療法と運動療法をしばらく続けたが血糖コントロールが十分に改善されないとき
- ②今までは食事療法と運動療法で管理出来ていたが、血糖値が徐々に高くなってきたとき

診断時の血糖値が高く**糖毒性**を除く必要があるとき
血糖値の上昇

糖毒性

◆糖毒性とは
高くなった血糖そのものがインスリン分泌不良を招いたり、インスリンの働きを悪くする原因となること。

薬物療法

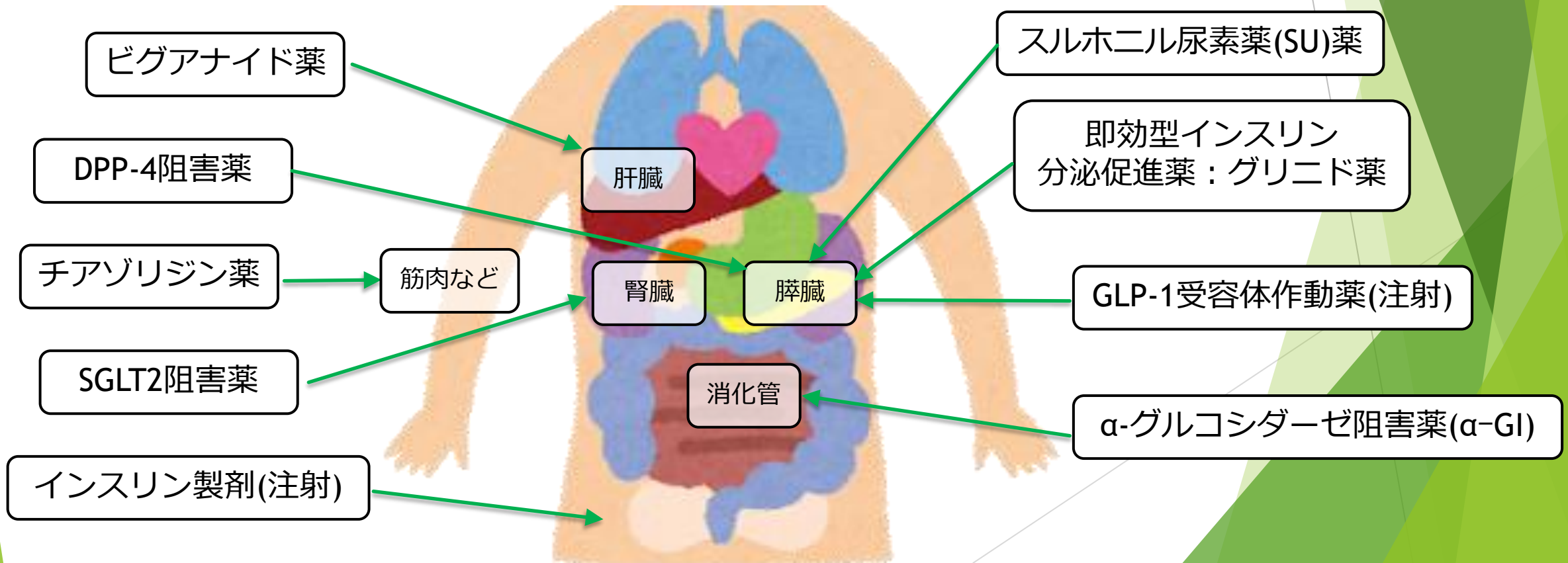
血糖値がさらに上昇する

治療薬の種類と作用部位

患者様に応じた薬が選ばれます。

治療薬には**経口薬(飲み薬)**と**注射薬**があります。患者様それぞれの血糖コントロールの状態に応じて治療薬が決められます。

食事療法・運動療法にしっかり取り組み、さらに毎日きちんと薬を服用することが大切です。



主な内服薬の種類

作用	分類	当院採用薬		副作用など
インスリンの分泌を促す	スルホニル尿素 (SU)薬	グリミクロン錠40mg		低血糖
		グリメピリドOD錠1mg		
	即効型インスリン 分泌促進薬	グルファスト錠10mg		食直前に服用
	DPP-4阻害薬	マリゼブ錠25mg(週1回)		低血糖 (SU薬やインスリンと併用時)
		ジャヌビア錠25mg		
		トラゼンタ錠5mg		

作用	分類	当院採用薬		副作用など
インスリンの働きを高める	チアゾリジン薬	アクトスOD錠15mg		むくみ (女性に多い)
	ビグアナイド薬	メトホルミン錠250mg		消化器症状 (下痢、お腹の張り、食欲不振)
糖の吸収を遅らせる	α-グルコシダーゼ阻害薬	アカルボースOD錠50mg		消化器症状 (お腹の張り、おならの回数の増加など) 食直前に服用
		ボグリボースOD錠0.3mg		
		ミグリトールOD錠50mg		
糖の排泄を促す	SGLT-2阻害薬	フォシーガ錠mg		脱水、口渇、頻尿、 尿路・性器感染症
		ジャディアンス錠10mg		

作用	分類	当院採用薬		副作用など
インスリンの働きを高める ＋ インスリンの分泌を促す	配合剤 ビグアナイド薬 ＋ DPP-4阻害薬	エクメット配合錠HD (メトホルミン500mg ＋ エクア50mg)		肝機能障害 便秘 空腹
糖の排泄を促す ＋ インスリンの分泌を促す	配合薬 SGLT-2阻害薬 ＋ DPP-4阻害薬	スージャヌ配合錠 (スーグラ50mg ＋ ジャヌビア50mg)		頻尿 便秘

薬はその人の身体の状態に合わせて使い分けられます。
薬を効果的に安全に使うために主治医の指示を必ず守りましょう。

